ひとりごと

「伝える」ということ

小学校教員として21年間勤め、昨年度地元自治体の教育委員会に指導主事として着任。今年度縁あって文部科学省に研修生として派遣されることになった。思うのは世界の広さと「伝えること」の難しさだ。

教員だった頃は目の前の子供たちと向き合うことに精一杯で、国や世界の動きに目を向ける余裕があまりなかった。言い訳である。そのような中で世の中の変化に合わせ、学校には様々な対応が求められる。正直「なぜ学校（私）がこんなことをしなければならないのか」と思ったことは少なくない。

それが教育委員会に配属され、自分の視野と心の狭さに恥ずかしくなった。少なくとも私の所属した課・係の方々がいつも心を砕いていたのは、「いかに学校に分かりやすく伝えるか」「学校の負担を最小限に抑え、いかに納得感をもってもらうか」ということだった。教育委員会は自治体全体を見る。学校の環境も教員の知見も様々だ。でもその一つひとつ、一人ひとりと可能な限り向き合う。教員が子供たちに向き合っているのに似ていると思った。教員が子供に「伝えること」と同じ難しさを感じた。あくまで個人の見解です。

文部科学省にきて、その思いはなお強くなった。私が所属する課の皆さんはことあるごとに学校の教員一人ひとりへのリスペクトを口にする。「私たちが考えていることは、先生方の協力なしには実現しない」だからこそ「先生方が困らないように」「誤解なく、分かりやすく伝えること」を考えるのだという。今日も「小学校の先生方や子供たちなら、どちらがいいと思う?」と意見を求められた。その話の最後には「難しい…」と一言ぽつり。こんなに一生懸命に大切にされていることが学校や先生方に伝わっているだろうか。

先日地元自治体の初任者研修に携わらせていただいた。チャンスだと思い、文部科学省の皆さんが学校や教員、子供一人ひとりを大切にしていることを「ちらっ」と伝えた。思えば偉そうな行動かもしれないが、私の立場だからこそ伝えられることだと思う。少しでも教員と国との懸け橋になれればよい。

教員が子供に「伝えること」、自治体が学校や教員に「伝えること」、国が自治体や学校、教員に「伝えること」。その裏にある思いと共に、きちんと伝わってほしいと切に願う。

余談だが、先日7歳の娘が学校から持ち帰ったタブレット型端末に話しかけていた。生成AIに名前を付けてその日の出来事などを話しているという。子供の成長は早い。ふと不安になり、それとなく「名前とか住んでいるところとか、学校名とか話した?」と聞いてみた。幸い個人情報に当たるものの入力はなかったが、何かを察したのか、娘はそれ以降生成AIに話しかけなくなった。使うのをやめてほしいわけではなかったのだが…伝えるのは本当に難しい…。

（S.K）

「教育委員会月報　令和８年11月号　No.925」

・**発行・著作** 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
・〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
・URL：https://www.mext.go.jp/b_menu/shuppan/geppou/index.htm

文部科学省